

中学校におけるネットリテラシーの現状に関する報告

1. 中学生のインターネット利用環境について

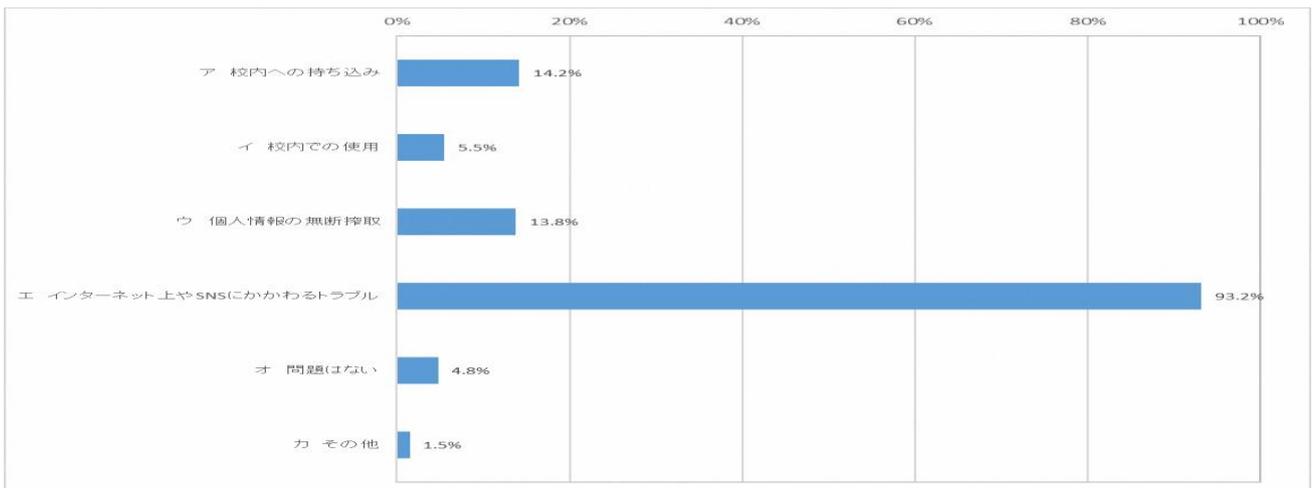
(令和2年度 内閣府調査より 令和3年2月の速報値)

- ① 中学生のインターネット利用状況 97.4%
- ② 中学生のスマートフォンでのインターネット利用状況 79.3%
- ③ 中学生のタブレットでのインターネット利用状況 44.1%
⇒ 現在は100%? GIGAスクール構想が完全実施されていれば
- ④ 家庭のルール(中学生と保護者の認識の差)
 - ルールを決めていると答えた中学生 71.2% (H29 65.1%)
 - ルールを決めていると答えた保護者 82.3% (H29 85.5%)
 - ⇒ 差は縮まっている
- ⑤ インターネットに関する啓発や学習の経験
 - 中学生 90.8% ⇒⇒⇒ 学校から: 96.9% 親から: 35.7%
 - 保護者 81.9% ⇒⇒⇒ 学校等での研修会等: 68.2%
 - 学校からの啓発資料: 51.4%

2. 令和2年度 全日本中学校長会 調査研究報告書より一部抜粋

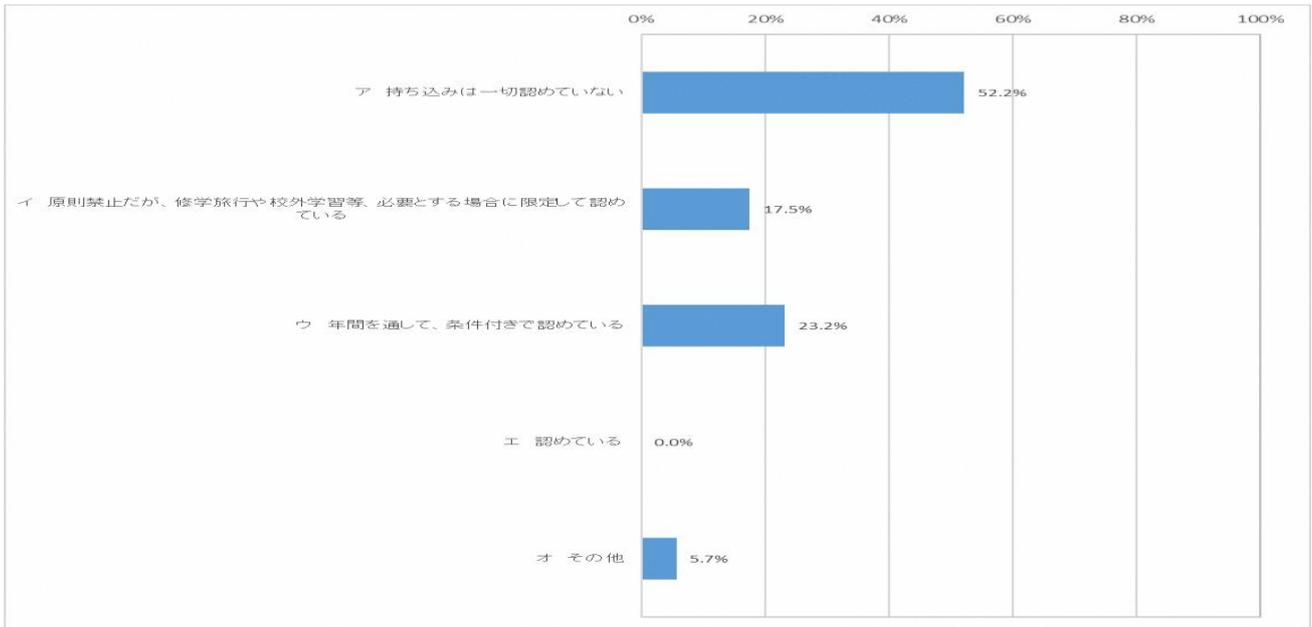
Ⅲ 携帯電話及びスマートフォン等(以下携帯電話等)に関する生徒指導について

〔1〕貴校における携帯電話等にかかわる生徒指導上の問題をお答えください。【複数回答可】



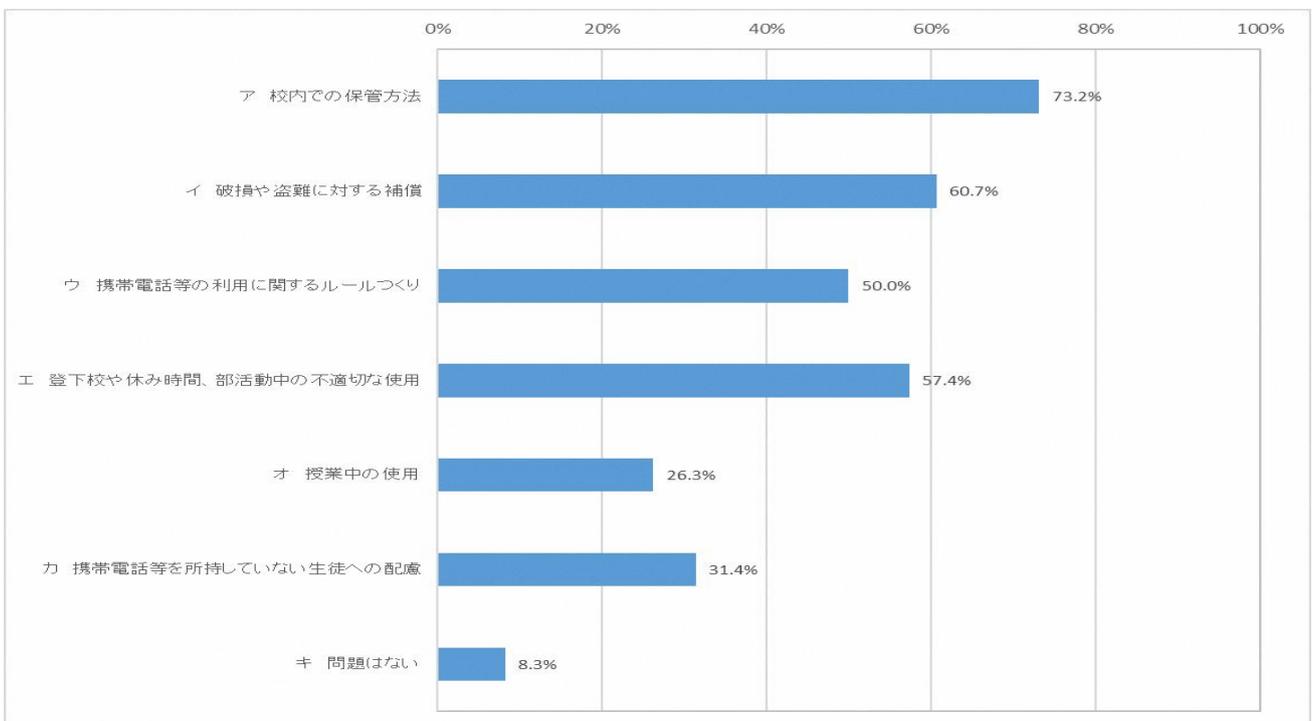
【考察】 昨年度調査において「ネット上の書き込み(掲示板、裏サイト、SNS等)」(75.4%)、「無料通信アプリ(LINE等)にかかわるトラブル」(71.9%)、「過度のネット依存」(61.4%)の3項目が上位を占めたことから、今年度は質問項目をより詳しく変更した。これらの項目を統合した「インターネット上やSNSにかかわるトラブル」が93.2%と数値が突出している。

〔2〕 貴校における携帯電話等の学校への持ち込みについてお答えください。



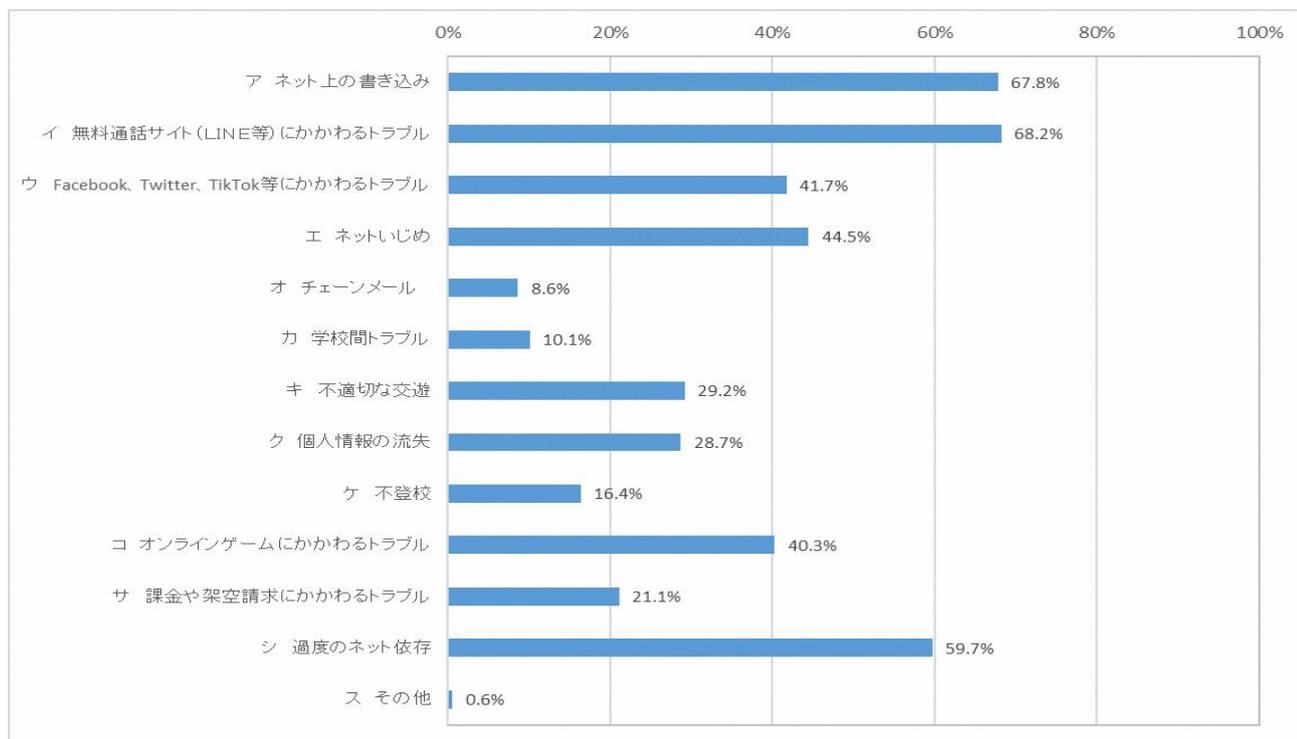
【考察】 今年度新たに設けた質問で、「持ち込みは一切認めていない」(52.2%)が約半数を占めたのに対し、「年間を通して、条件付きで認めている」(23.2%)、「原則禁止だが、修学旅行や校外学習等、必要とする場合に限定して認めている」(17.5%)と何らかの条件付きで持ち込みを容認しているのは40.7%であった。「認めている」と回答した学校はなかった。

〔3〕 貴校において携帯電話等の持ち込みを容認するにあたっての問題についてお答えください。
【複数回答可】



【考察】 今年度新たに設けた質問で、「校内での保管方法」(73.2%)が最も多く、次いで「破損や盗難に対する補償」(60.7%)、「登下校や休み時間、部活動中の不適切な使用」(57.4%)、「携帯電話等の利用に関するルールづくり」(50.0%)が上位を占めている。

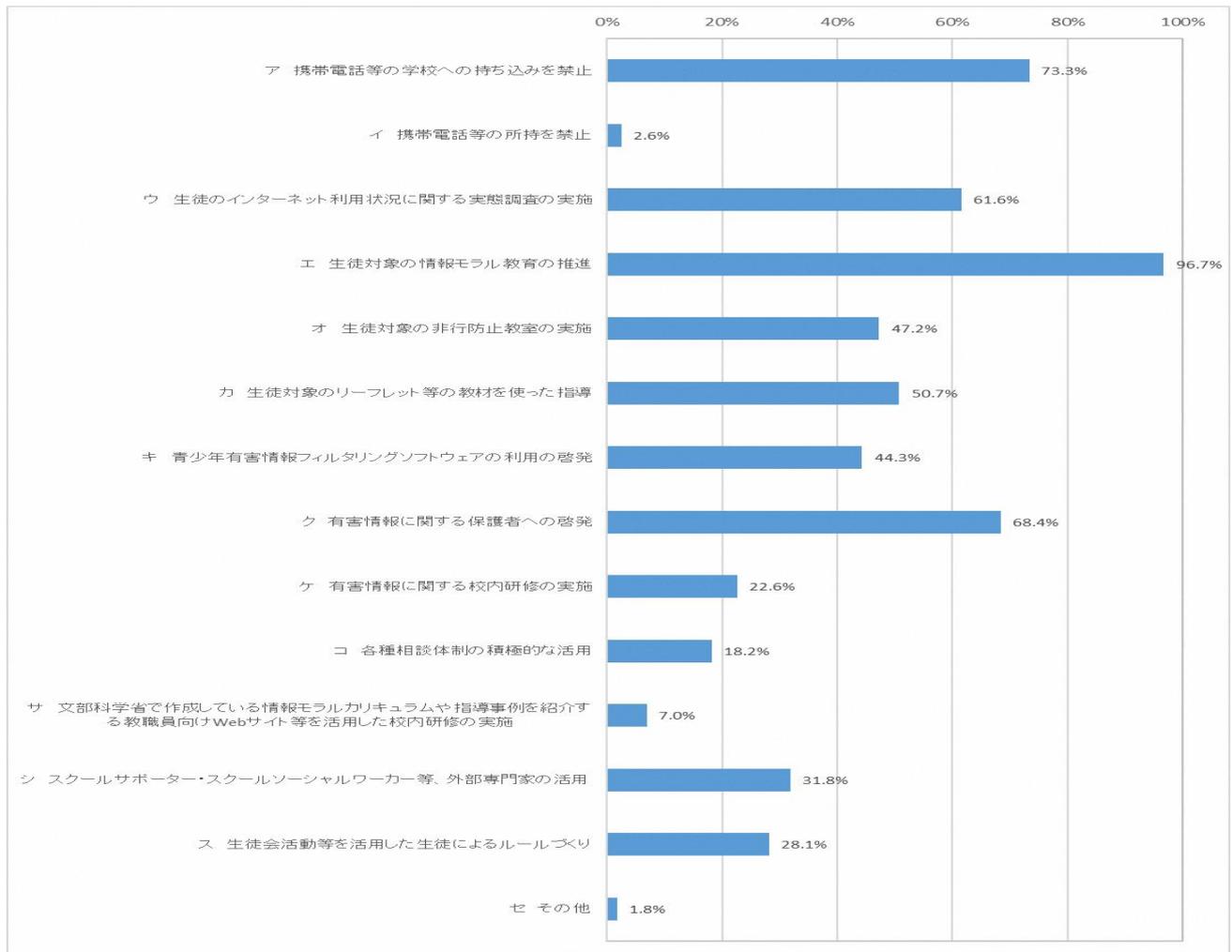
〔4〕貴校における携帯電話等にかかわるインターネット上やSNSに関する問題についてお答えください。【複数回答可】



【考察】 今年度から項目をより詳しくしたもので、一昨年度、昨年度に引き続き①「無料通話サイト(LINE等)にかかわるトラブル」(68.2%)と②「ネット上の書き込み」(67.8%)、③「過度のネット依存」(59.7%)が上位を占めているが①は3.7ポイント、②は7.6ポイント、③は2.1ポイント減少している。また、「不適切な交遊」(29.2%)が7.2ポイント、「Facebook、Twitter、TikTok等にかかわるトラブル」(41.7%)が5.9ポイント増加しているのに対し、「不登校」(16.4%)が5.1ポイント減少している。なお、昨年度の「オンラインゲーム関連の料金トラブル被害」(14.0%)を今年度は「オンラインゲームにかかわるトラブル」(40.3%)に、同様に「架空請求被害」(0.8%)を「課金や架空請求にかかわるトラブル」(21.1%)に変更している。

〔5〕携帯電話等によるトラブルを防ぐためにこれまで取り組んできたことをお答えください。

【複数回答可】



【考察】 例年と同様に「生徒対象の情報モラル教育の推進」（96.7%）や「携帯電話等の学校への持ち込みを禁止」（73.3%）、「有害情報に関する保護者への啓発」（68.4%）が上位を占めている。

昨年度との比較では、「生徒対象のリーフレット等の教材を使った指導」（50.7%）が10.7ポイント、「青少年有害情報フィルタリングソフトウェアの利用の啓発」（44.3%）が8.5ポイント増加しているのに対し、「携帯電話等の学校への持ち込みを禁止」（73.3%）が14.9ポイント、「生徒会活動等を活用した生徒によるルールづくり」（28.1%）が6.2ポイント、「生徒対象の非行防止教室の実施」（47.2%）が4.6ポイント減少している。

Ⅲ まとめ

調査1 健全育成の推進・充実のための研究、当面する生徒指導上の課題への対応に関する調査

3 携帯電話等に関する生徒指導について

依然として「インターネットやSNS等にかかわるトラブル」が生徒指導上の大きな課題となっており、特に「無料通信アプリ（LINE等）に関わるトラブル」や「ネット上の書き込み（掲示板、裏サイト、SNS等）」、「過度のネット依存」への対応が求められる。あわせて、「ネットいじめ」や「Facebook、Twitter、TikTok等にかかわるトラブル」、「オンラインゲームにかかわるトラブル」にも留意する必要がある。それぞれの項目が複合的に絡み合っている場合も考えられ、早急に具体的な対策を講じることが求められる。

携帯電話のトラブル防止策としては、例年と同様に「生徒対象の情報モラル教育の推進」や「携帯電話等の学校への持ち込みを禁止」「有害情報に関する保護者の啓発」が上位を占めている。ただし、「携帯電話等の学校への持ち込みを禁止」は大きく減少しており、何らかの条件付きで持ち込みを容認する方向性も見受けられることから、引き続き今後の動向を注視していく必要がある。